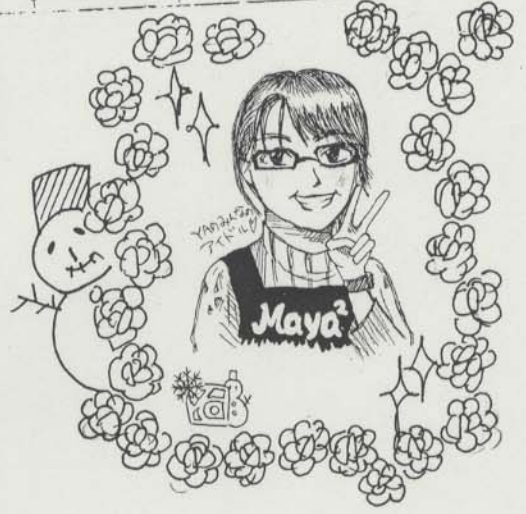
図書館のあの人に インタビュー

第八回 再び 飯野さん



今回は中央図書館の飯野さんにインタビューしました。
飯野さんへのインタビューは、二回目なので、面白い質問をたくさんしてみました。

好きな花
バラ。赤い花が好き。幸運を呼ぶから。

好きな動物
ペネロペ（青いコアラ）女の子で四才。ちょっと、とぼけているから好き。
＊絵本の主人公です＊

最近読んで面白かった本
『オチケン！』大倉崇裕。ミステリーなのに笑えるところがおすすめ。

今、行きたい場所はどこですか？
スイスに行ってハイジに会いたい（笑）ハイジは、いるんだよ！前に一人旅したことあるよ、スイス。その時、ハイジに会った。前は、冬だったから、今度は夏に行きたい。

前回のインタビューの時、お笑い好きと言っていましたが、今はどうですか？
お笑いはすっかり卒業しました。今は、お芝居を毎月二回くらい観に行っている。あと、芸人から俳優に興味が変わった。

例えば？
阿部サダヲとか、妻夫木聡…大沢たかおも良いな。

中高生のころ、はまっていたことは？
はまっていたこと―？昔のことは覚えてないよー。硬式テニス部だったのでテニスをやってたよ、『エースをねらえ』に影響されて。

ズバリこの冬おすすめの本を一冊！
『さむがりやのねこ』(絵本)

最後に中高生の方に一言
季節は冬ですが、寒くても図書館に来てね！

飯野さんお忙しい中インタビューに答えてくださり、ありがとうございました。

クイズの答え ①

①だけスポーツではない

連載小説

君のために（第二回）

連

――放課後…
生徒会室には他のメンバーおろか樹里さえもいなかった。
「（まさか…騙された？）」
辺りを見回すと置手紙らしき紙が一枚置いてあるだけだ。手にとって見てみると『みつけて』とだけ記されていた。主語どころか名前も書いていない。そして、ワープロで打たれたもののため、字からは検討もつかない。とりあえず生徒会室を一通り探したが居ない。
「たくっ…何処で何を探せって言うんだよ。」
俺は紙をズボンのポケットにしまい込み、生徒会室を後にした。

適当に歩き回っても特に変わった所はない。
「彰～！！」
後ろから呼ぶ声は知っているものだった。
「拓真？」
拓真は走りながら近づいてきて息を切らしている。
「さっきそこで書記の子にあったら今日生徒会の話聞いてないって。」
「だろうな…呼んだ張本人だって居ないんだ。」
「樹里が？」
「生徒会室に行ったらこれだけが置いてあった。」
ポケットから置手紙を取り出し、拓真に渡す。
「…で、彰は何を探してるの？」
「分からない。」

適当に歩き回ってみたが何もないというか、何か物足りない。
「自分に必要なものを探しているのかも…。」
「それって何？」
俺にとって必要なもの…必要な人…
「樹里…なのかな…？」
気づいた瞬間、止まっていた足が動き出す。
「いってらっしゃ～い。」
背中を押すように言葉が俺の足を動かす。さっきまでより速く走っていた。携帯で電話しても電源を切っているらしく繋がらない。
「くそっ…樹里！…樹里！」
何度呼んでも姿が見えない。頭の中で樹里が行きそうな所を思い出す。
「（校内は全て探した。…て事は外？外で行きそうな場所…」
俺たちがよく遊んだ…あの約束を交わした思い出の場所。そこに向かって足を進めた。

（続）

心理ゲームの結果

あなたの親友としてのタイプをチェック

①を選んだ人は、友だちからなかなか親友と思われにくいムードがあるよう。好かれてはいるけれど、ちょっと高いところにいる存在という印象があるみたいよ。

②を選んだ人は個性的な人。2～3人と親友になれるけれど、だれでとでも仲よくなれるタイプではないみたい。

③を選んだ人は、とっても親しみやすいムードの持ち主。だれからも親友候補と考えられているはず。

神様のアシアト（第六回）

チャーリイ

蒸し暑い外とは対照的に山の中はひんやりとしていた。
「ここにくるの何年ぶりだろう・・・」
昔はおばあちゃんにつれられて、山菜とりにきたものだった。
「しのちゃんはね、この山が大好きだったんだよ。私がね『しのちゃん、おばあちゃんと山菜とりにいこうか？』て言うとね、とっても喜んで『一緒に行く！』て言ったもんだよ。おきにいりのシャベルもってね、玄関とびだしておばあちゃんの先走ってしかも、しのちゃん速いからとても大変だったよ。」
と前、話していた。はっきりいって私がそんな元気な子どもだったとは驚いた。おばあちゃんは大変だったんだよといいつつも楽しそうに話していた。
うっそうとしげった木、鴉のけたたましい鳴き声、夕方のせいかよくわからないけど薄暗い林。そんなシチュエーションのせいで薄気味悪くなっている山道を私は歩いていた。どこにいくかは決まってないけど足はかってに進んでいた。休むひまもなくロボットにでもなったみたいに坂道を歩いた。

何分歩いたのか、もしくは何時間歩いたのかわからない。ふと視界がひらけるとたくさんにちらばった家が見えた。そうすると足もふしぎにピタリと止まった。夕暮れの町並みはオレンジ色に光って私は息をのんだ。
「きれい・・・」
おもわず思ったことが口にでたことに自分でもビックリしてしまった。
ひととおりぐるりと周りを見回すと山道の遠くの方に白い物体があった。
「人かな・・・・？」
この時間帯には山に登る人なんていないはずだ。でも目を細めてみるとぼんやりと人のようなかたちをしていた。よくわからないままた足はかってに歩きだした。それにむかって歩いた。
まるでひきよせられているみたいに。

（続）

編集後記

初めてやりました。初めてだったけどとっても楽しかったです。 K

はじめてだったけど楽しかったです。またやりたいです。 M

もう小説6回もやってるのに終らない…。そんな小説をあきずに読みつづけている人はいるのでしょうか？そんな今日このごろ チャーリイ

4コマと本の紹介をやりました。いつもの通りでしたが、イラストは4コマのヒロイン描きました。今回もがんばったのでぜひ、よんで下さい。朝日新聞ってすごいだ～ R

今回は本当に何もしていませんが、ケーキ美味しかったです。 ゆ

最近読んだ本だったので、書きやすくて、楽しかったです。 し

小説が微妙な感じになって来ました(汗) 次回で終わる予定。大きな心で見てやってください 連

ケーキすっごくおいしかった♡ 何もしていないけど今回も楽しかったです！ ゆ

またまたやりました。本のしょうかい 朝日新聞にものってたなんて… S

今回紹介した本は題名がおもしろかったので読んだものです。本との出会いってこんなものです。皆さんがすてきな本に出会えますように R